

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

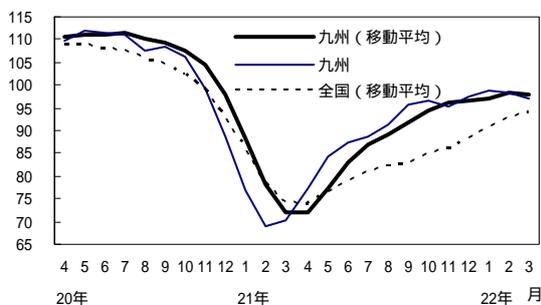
| | 前回(平成22年2月) | 今回(平成22年5月) | |
|-------|------------------------------|-----------------------|--|
| 鉱工業生産 | 持ち直している | 緩やかに持ち直している | |
| 個人消費 | 持ち直しの動き | 持ち直している | |
| 住宅建設 | 大幅に減少 | 減少 | |
| 雇用情勢 | 厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている | 厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある | |

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

電子部品・デバイスは、クリスマス商戦の反動から、ロジック・マイコン等のモス型計数回路を中心に減少している。輸送機械は、国内外の需要増や新車投入効果から乗用車を中心に増加している。食料品・たばこは、ビールが振るわないものの、プロイラー加工品、配合飼料が増加している。一般機械は、半導体製造装置を中心に増加している。化学は、インフルエンザ関連医薬品の生産が落ち着いたことから、医薬品が減少している。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

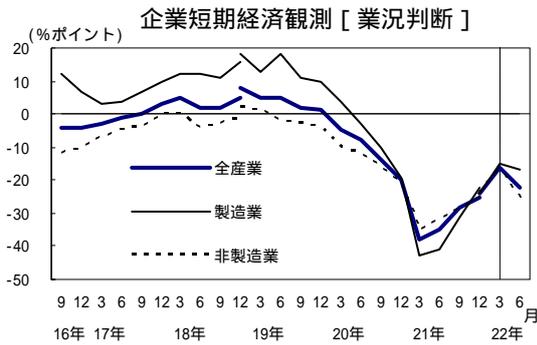
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | 出荷 | 在庫 |
|-----------|--------------|-------------|-----------|-----------|-----------|
| | | 10~12 月期 | 1~3 月期 | 1~3 月期 | 1~3 月期 |
| 電子部品・デバイス | 15.6 | 10.1 | 7.9 | 7.3 | 0.8 |
| 輸送機械 | 15.4 | 4.0 | 7.0 | 6.9 | 5.7 |
| 食料品・たばこ | 10.6 | 2.9 | 3.0 | 2.0 | 4.6 |
| 一般機械 | 10.6 | 0.6 | 17.4 | 17.1 | 3.2 |
| 化学 | 8.2 | 13.1 | 4.5 | 5.2 | 3.1 |
| 鉱工業 | 100.0 | 4.8 | 1.6 | 2.2 | 1.1 |

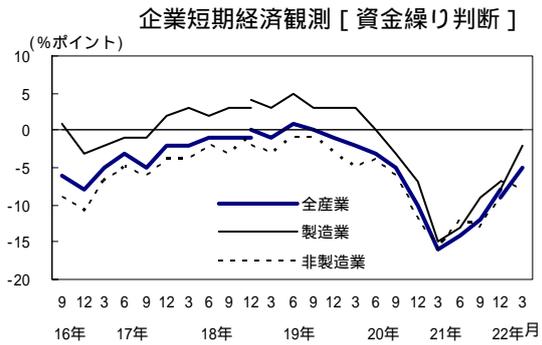
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

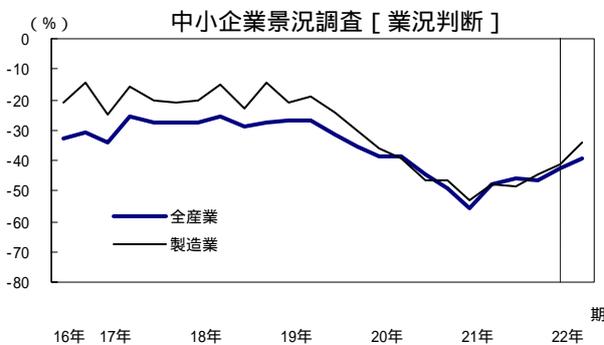
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

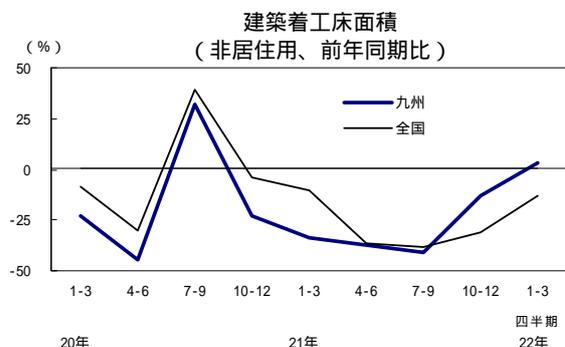
「半導体関連は順調に推移しており、受注量、単価共に良い状況で推移している。全般的にまだ今の景気自体は継続していく。また精密機械部門も同じような状況にある(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

| | (前年度比、%) | |
|------|-------------|--------|
| | 21年度実績見込み | 22年度計画 |
| 全産業 | 16.0 (1.1) | 3.5 |
| 製造業 | 39.7 (1.7) | 8.7 |
| 非製造業 | 0.7 (0.9) | 1.3 |

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

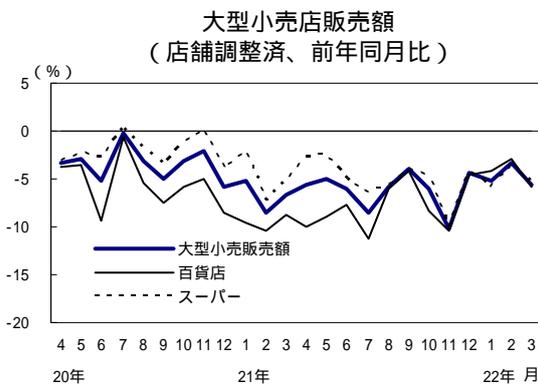
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、初物セールや、後半に暖かい日が続いた影響から春物衣料品にも動きがあり、前年比の減少幅は縮小した。2月は、消費者の節約志向が引き続けているものの、春物衣料品が好調であったため、前年比の減少幅は縮小した。3月は、天候不順などの影響があるものの、春のバーゲンなどが好調であったことから、前年比の減少幅は縮小した。なお、日本百貨店協会によると、福岡地区の4月の売上高は、前年同月比6.3%減、福岡を除く九州・沖縄地区の4月の売上高は、前年同月比8.7%減となっている。

スーパーは、天候不順の影響などから全般的に振るわなかったものの、節分やバレンタイン関連等で、春物衣料品や飲食料品に一部改善がみられ、前年同期比の減少幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

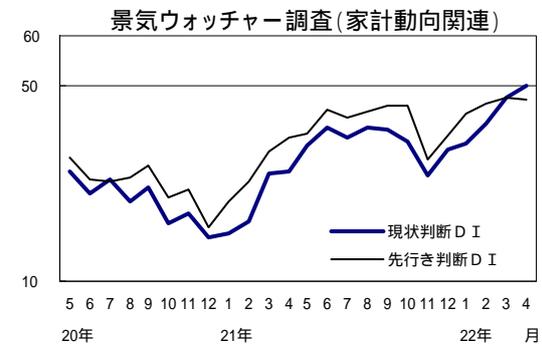
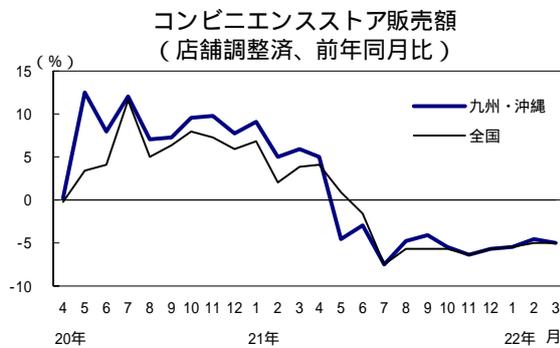
「前年12月から底を打った感は見受けられるが、売上は前年の水準を行き来しており、少し鈍化した感がある(その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

| | 21年4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 22年1-3月 |
|----------|---------|------|--------|---------|
| 大型小売店 | 5.5 | 6.3 | 6.6 | 4.8 |
| 百貨店 | 8.9 | 7.7 | 7.4 | 4.4 |
| スーパー | 3.4 | 5.5 | 6.1 | 5.0 |
| 乗用車 | 14.3 | 2.7 | 21.0 | 23.8 |
| 景気ウォッチャー | 37.2 | 40.4 | 35.6 | 42.4 |

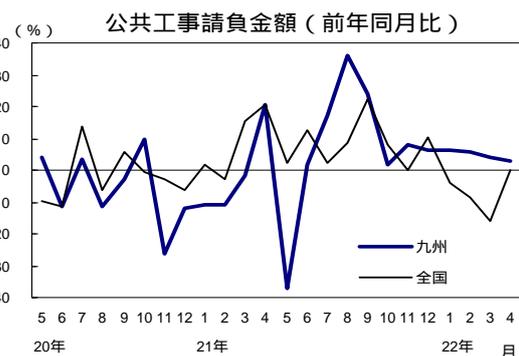
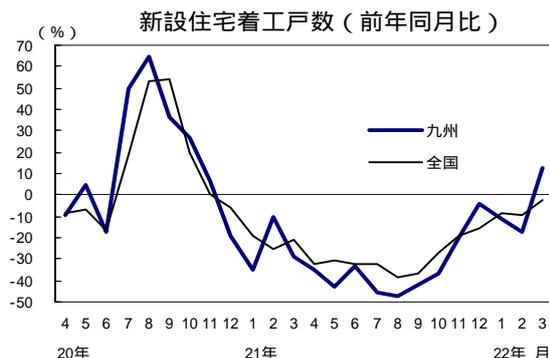
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済、九州・沖縄地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

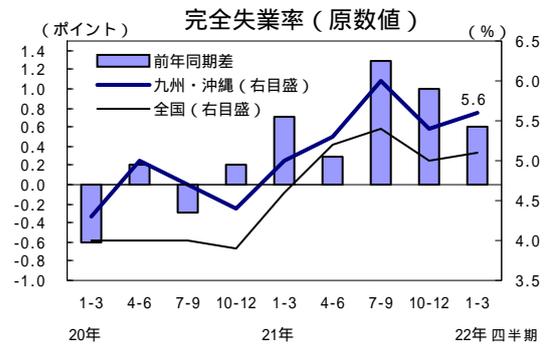
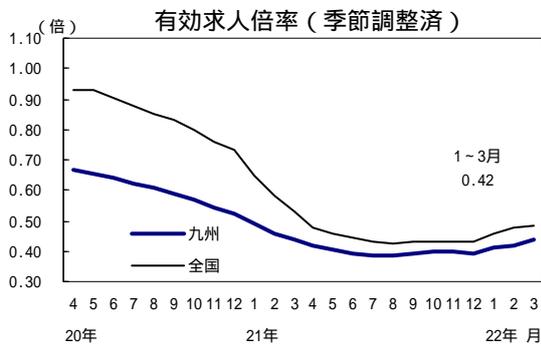


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人は倍率上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

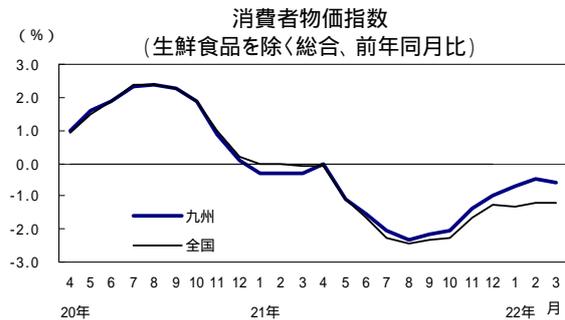
「時期的には求人受理件数が増加しているが、採用予定の人数は抑え気味のままである。また、学内で実施する採用セミナーへの申込状況は低調なままである(学校[大学])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|----------|------|--------|---------|-------|
| | 21年4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 22年1-3月 | 22年4月 |
| 倒産件数 | 283 | 242 | 249 | 215 | 61 |
| (前年比) | 19.6 | 32.2 | 31.6 | 19.2 | 23.8 |
| 負債総額 | 1,028 | 476 | 485 | 424 | 101 |
| (前年比) | 39.9 | 69.8 | 74.7 | 61.7 | 69.8 |



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・NHKの大河ドラマの影響で、長崎への観光客が増えている。また修学旅行の客も増えている(タクシー運転手)。

<先行き>

・口蹄疫の発生により、畜産農家は中期的に厳しくなってくる。口蹄疫が解消すればある程度は回復傾向になるが、今の段階では厳しい(農林水産業)。

